

---

九州大学箱崎キャンパスにおける近代建築物の  
調査ワーキンググループの評価報告

---



# 近代建築物の調査報告

## 近代建築物調査ワーキンググループ

### はじめに

九州大学では、現在、箱崎キャンパス、六本松キャンパス及び原町農場を伊都キャンパスへの統合移転事業を行っている。

その中において、九州大学の百年の歴史と共に歩んできた箱崎キャンパスには、数多くの近代建築物が存在している。

しかしながら、これまで、九州大学箱崎キャンパスの近代建築物に対しては、客観的評価は行われてこなかった。

このため、「九州大学箱崎キャンパスにおける近代建築物の調査ワーキンググループ」(以下「ワーキンググループ」という。)を設置し、九州大学の統合移転事業に伴う九州大学箱崎キャンパス跡地の計画的なまちづくりと円滑な跡地処分のため、近代建築物の客観的評価を行った。

平成24年4月から箱崎キャンパス内に点在する近代建築物について、調査に取りかかり、建築物の外観・内装等の現地調査、参考文献等の資料を専門的視点から検証、7回におよぶワーキンググループによる審議を重ね、歴史的、建築学的、文化的小よび再活用という多様な観点から客観的評価の結果をまとめたものである。

### 評価の前提

#### 1. 目的

箱崎キャンパスは、九州大学が活動してきた百年間の資産としての近代建築物が数多く残されている。

箱崎キャンパス内に点在する近代建築物について、歴史的、建築学的、文化的小よび再活用という多様な観点から近代建築物の価値を検証し客観的評価を行うことを目的とする。

#### 2. 近代建築物等の評価対象

学内外の学識者を中心とした構成員からなるワーキンググループでは、箱崎キャンパスの建築物等について、現存する大正末期、昭和初期から戦前までの建築物を近代建築物の対象とし、『平成17年度九州大学箱崎キャンパス内歴史的資源の現況調査』成果報告書』などの参考文献を基に30カ所の近代建築物を現地調査対象物件として、委員による建築物等の外観・内装等の調査を実施し、創立五十周年記念講堂等の戦後の建築物を加えたうえで、評価に値する対象建築物を24棟に絞り込み、さらに、正門、農学部庭園、地蔵の森(工学部創立75周年記念庭園)の3つの工作物を加え、専門的立場から評価を実施した。

### ワーキンググループ名簿

#### 委員

(順不同)

氏名	所属・役職
WG長 常岡 稔	TM環境・建築研究所・代表 (元一般社団法人日本建築学会九州支部長)
折田 悦郎	九州大学・教授 (日本近代大学史)
佐藤 優	九州大学・教授 (サイン, 景観)
高田 仁	九州大学・准教授 (経済学)
蜷川 利彦	九州大学・教授 (建築構造)
土田 充義	NPO法人文化財保存工学研究室・理事長 (鹿児島大学名誉教授, 建築史)

#### オブザーバー

(順不同)

氏名	所属・役職
坂井 猛	九州大学・教授
市原 猛志	九州産業大学景観研究センター・博士研究員

### WG開催状況

- 第1回 平成24年 4月27日 開催
- 第2回 平成24年 5月17日 開催
- 第3回 平成24年 6月15日 開催
- 第4回 平成24年 7月26日 開催
- 第5回 平成24年10月 9日 開催
- 第6回 平成24年11月14日 開催
- 第7回 平成24年12月 4日 開催



### 評価項目・基準・方法

#### (1) 評価項目の選定

評価の大きな枠組みとして歴史的視点・文化的視点を出発点とし、九州大学箱崎キャンパスにおける近代建築物の客観的評価にふさわしい評価項目の絞り込みをワーキンググループで実施し、建築学的視点と再活用度評価の視点を評価項目に加え大項目を4項目とした。さらに、中項目を7項目設定した。

#### (2) 評価項目

大項目	中項目
歴史的評価	大学の歴史的経過と結びついた価値評価
	社会、時代の歴史的経過と結びついた価値評価、産業遺産など
建築学的評価	建築の意匠史的側面からの価値評価。様式、近代建築、モダニズム建築、インテリアデザイン、営繕の制度的評価など
	建築の技術史的側面からの評価、構法、素材、建築設備、環境配慮など
文化的評価	社会全般に対する文化的資産、芸術性、社会性、シンボル性
	地域の文化資産、地域景観資産としての評価、地域への貢献
再活用度評価	街づくりとしてのランドマークなどの利用価値評価、敷地、建物としての再利用のしやすさ

#### (3) 参照情報を活用するにあたってのガイドライン

各委員は、大学文書館所蔵の資料群、各委員の専門分野の文献等を活用するにあたり、参照情報を活用するにあたってのガイドラインに基づき客観的に評価する。

##### ① 歴史的視点

- ・箱崎キャンパスの歴史的背景と重なる建築物
- ・企業等の寄付により建設された建築物
- ・全国に類似例が少ない建築物
- ・特別な由来及び由緒がある建築物
- ・その他歴史的に重要な建築物

##### ② 建築学的視点

- ・建築意匠史的に優れている建築物
- ・デザインの優位性がある建築物
- ・大学の学問分野、社会的評価も考慮した建築物
- ・現在では珍しい技術や技能、材料が使用されている建築物
- ・その他建築学的に重要な建築物

##### ③ 文化的視点

- ・重要文化財、登録有形文化財に匹敵する建築物
- ・福岡市都市景観賞などを受賞した建築物
- ・近代化産業遺産群の認定(経済産業省認定)などを受けた建築物
- ・学内外の広報誌、映画撮影に活用した建築物。
- ・周辺地域(都市)と大学が連携して活用している建築物
- ・その他文化的に重要な建築物

##### ④ 再活用度の視点

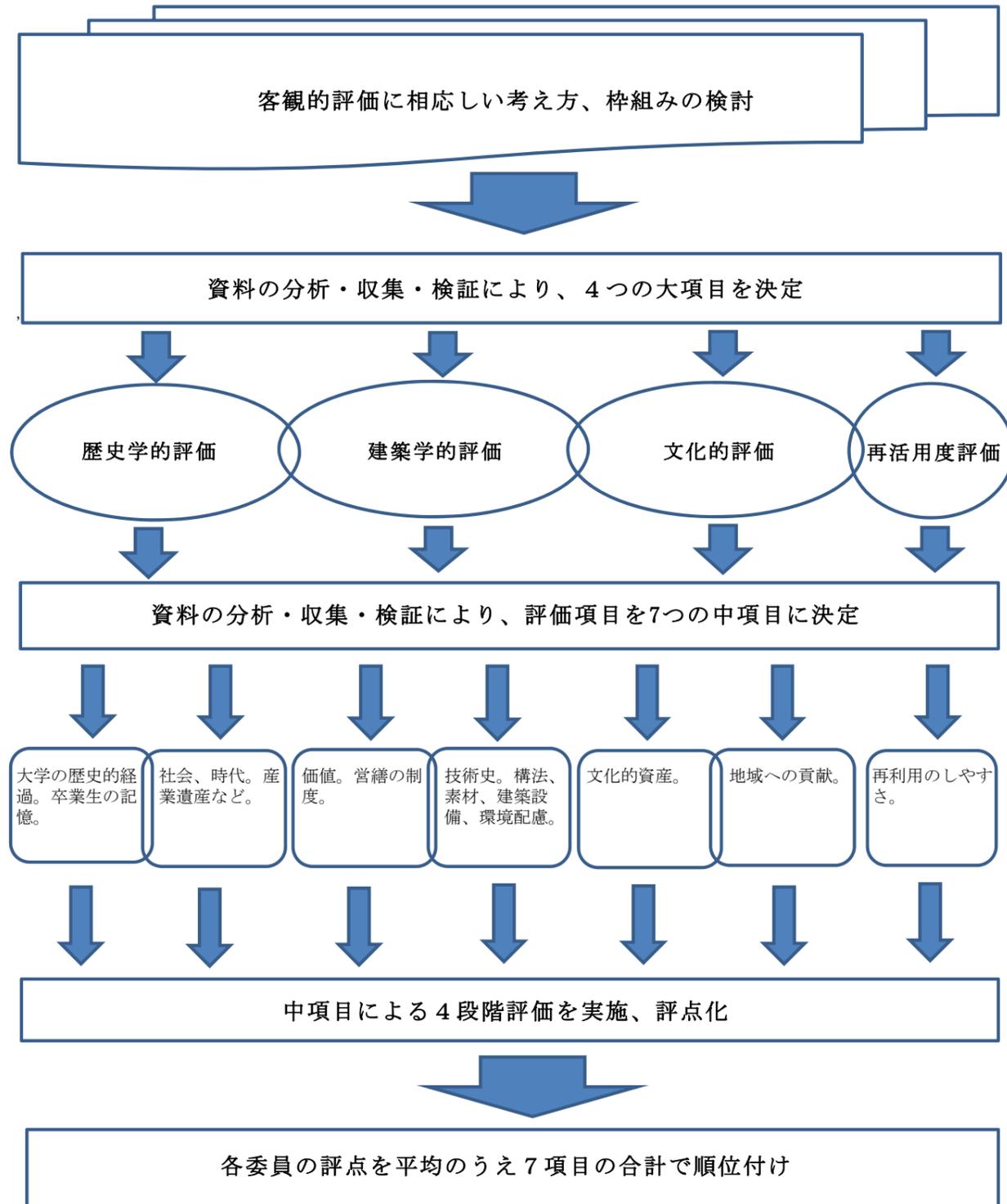
- ・大学等のシンボル、ランドマークとなる建築物
- ・周辺地域(都市)の資源として、再活用できる建築物
- ・その他再活用がしやすい建築物

#### (4) 評価基準・評価方法

- ①各委員は、大学文書館所蔵の資料群、各委員の専門分野の文献等を活用するにあたり、参照情報を活用するにあたってのガイドラインに基づいた視点に基づき客観的に評価する。
- ②評価は、S、A、B、Cの基準で中項目7項目毎に各委員が評価を実施する。
- ③評価の基準は、次のとおりとする。
  - ・S評価は、特に評価が高いもの
  - ・A評価は、評価が高いもの
  - ・B評価は、評価に値するもの
  - ・C評価は、評価が高くないもの
- ④各委員の評価は、評価の後に $S=3 \cdot A=2 \cdot B=1 \cdot C=0$ に置き換えて、中項目ごとの平均点を算出する。
- ⑤各委員で評価ができない場合は空白、推定で評価する場合は( )書きで評点をつける。
- ⑥項目の平均点を合計のうえ、建物ごとに評価の際に21点満点を100点に換算し、順位付けする。
- ⑦建築物等の再活用に必要な情報を一覧表に記載する。
- ⑧箱崎キャンパス配置図に順位をプロットする。

評価方法

評価フロー図



参照情報

○基礎資料

- 「工学部造船学教室設計図」綴、1921年
- 「九州帝国大学農学部汽罐室新築設計図」綴、1921年
- 「農学部附属農場畜舎新築設計図」綴、1923年
- 「農学部附属農場豚舎山羊舎新築設計図」綴、1923年
- 「工学部仮実験室研究室及全第一附属家新築設計図」綴、1924年
- 「工学部河海工学実験室新築設計図」綴、1924年
- 「法文学部本館新築設計図」綴、1925年
- 「法文学部図書館及書庫新築設計図」綴、1925年
- 「工学部応用化学教室新築設計図」綴、1926年
- 「医学部附属医院第一外科教室病室新築設計図」綴、1926年
- 「法文学部心理学教室新築設計図」綴、1926年
- 「農学部農芸化学実験室外二廉新築設計図」綴、1926年
- 「医学部附属病院第一第二第三教室及病室新築工事設計図」綴、1927年
- 「工学部本館新築設計図」綴、1928年
- 「農学部発電所新築設計図」綴、1929年
- 「工学部高周波電気及電子工学実験室新築設計図」綴、1930年
- 「農学部附属演習林本部事務室新築設計図」綴、1930年
- 「医学部附属病院温泉治療学研究所設計図」綴、1931年
- 「医学部附属医院整形外科歯科口腔外科教室病室新築第一期工事設計図」綴、1932年
- 「医学部法医衛生細菌学教室新築工事設計図」綴、1933年
- 「工学部航空学教室新築設計図」綴、1938年
- 「農学部農芸化学教室新築設計図」綴、1938年
- 「理学部実験室設計図」綴、1940年
- 『「九大風雪記」西日本新聞社 1948 復刊(九州大学大学史料室編)』 2003
- 「工学部建築学教室新営工事設計図」綴、1958年
- 「九州大学50周年記念講堂設計図」、1967年
- 「九州の近代－建築家不在の土壤－」『建築雑誌』1981年8月号、日本建築学会
- 『日本の大学キャンパス成立史』九州大学出版会 1989
- 『九州大学理学部 創立五十周年記念誌 平成元年四月』理学部創立50周年記念事業実行委員会編 1989
- 『或る明治外科医のメモランダム－九大医学部揺籃期－』、1998年、日本文教出版
- 「九州大学の現状」『第18回タンデム加速器及びその周辺技術の研究会報告集』 2005
- 『九州帝国大学職員録』
- 『九州大学職員録』
- 『文部省職員録』
- 『九州帝国大学一覧』

○客観的評価に活用した資料

- 日本建築学会編集『日本の建築 第9巻 九州・沖縄』株式会社新建築社 1988
- 九州大学75年史編集委員会『九州大学七十五年史』九州大学出版会 1992
- 福岡県教育委員会『福岡県の近代化遺産』西日本文化協会 1993
- 『「平成17年度九州大学箱崎キャンパス内歴史的資源の現況調査」成果報告書』建築史塾Archist・九州大学文書館編 九州大学 2007
- 社団法人日本建築学会『建造物の評価と保存活用ガイドライン』2007
- 九州産業考古学会編『福岡の近代化遺産』弦書房 2008
- 九州大学『九州大学百年史写真集』2011
- 国立大学法人北海道大学『歴史的建造物を有効に活用するための評価手法』2012

# 近代建築物の調査報告

## 箱崎キャンパス近代建築物評点の順位

順位	棟名称 (建設当初の名称)	構造	規模(階数・地下、面積㎡)		評点 (※2)	評点の 合計	歴史的評価		建築学的評価		文化的評価		再活用度評価		再活用に関する構造的留意点		
			階数・ 地下	面積 (㎡)			大学の歴史的経緯と結びついた価値評価。	社会、時代の歴史的経過と結びついた価値評価。産業遺産など。	建築の意匠史的側面からの価値評価。様式、近代建築、モダニズム建築、インテリアデザイン、當構の制度的評価など。	建築の技術史的側面からの評価。構法、素材、建築設備、環境配慮など。	社会全般に対する文化的資産、芸術性、社会性、シンボル性。	地域の文化資産、地域景観資産としての評価。地域への貢献。	街づくりとしてのランドマークなどの利用価値評価。敷地、建物としての再利用のしやすさ。	耐震性能 (I s, 調査年度)		コンクリート中性化深さの平均 (mm) 資料参照	コンクリート圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> ) 資料参照
1	工学部本館	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造	5 B1	10,324	94	19.81	2.83	2.83	2.83	2.83	2.83	2.83	2.83	0.51, H19	35.4	21.3	鉄筋コンクリート造であるが、耐震性が不足し、構造体が劣化しているため、耐震補強改修が必要である。
2	本部第一庁舎 (仮実験室研究室)	煉瓦造	2	2,881	92	19.47	2.83	2.66	2.83	2.66	2.83	2.83	2.83	—			煉瓦造であり、耐震性が危惧されるため、詳細な調査が必要である。
3	正門門衛所	煉瓦造	1	34	84	17.82	2.83	2.50	2.50	2.33	2.66	2.50	2.50	—			煉瓦造であり、耐震性が危惧されるため、詳細な調査が必要である。
4	保存図書館(法文学部図書館及び書庫)	鉄筋コンクリート造	4	3,068	83	17.48	2.66	2.50	2.66	2.33	2.50	2.33	2.50	0.30, H19	72.9	11.1	鉄筋コンクリート造であるが、耐震性が不足し、構造体が著しく劣化しているため、耐震補強改修が必要である。
5	本部第三庁舎	煉瓦造	2	788	81	17.15	2.66	2.50	2.50	2.50	2.50	2.33	2.16	—			煉瓦造であり、耐震性が危惧されるため、詳細な調査が必要である。
6	旧応力研生産研本館 (法文学部本館)	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造	4	9,570	80	16.81	2.66	2.50	2.83	2.16	2.33	2.50	1.83	—	25.3	9.5	鉄筋コンクリート構造物としては、老朽化が著しいため、寿命に達している。
7	応用物質化学機能教室 (応用化学教室)	鉄筋コンクリート造	4	2,782	77	16.31	2.50	2.83	2.66	2.50	2.33	1.83	1.66	—	73.6	12.4	鉄筋コンクリート造であるが、構造体が著しく劣化しているため、耐震補強改修が必要である。
8	旧文学部心理学教室	鉄筋コンクリート造	2	628	72	15.32	2.50	2.50	2.33	2.16	2.00	1.83	2.00	0.8, H18	56.3	24.4	構造体の劣化が見られる。
9	船舶海洋工学実験室 (造船学実験室)	煉瓦造	1	662	69	14.65	2.50	2.33	2.33	2.50	1.83	1.66	1.50	—			煉瓦造であり、耐震性が危惧されるため、詳細な調査が必要である。
9	創立五十周年記念講堂	鉄筋コンクリート造	4 B1	6,157	69	14.65	2.50	2.00	2.16	2.33	2.16	2.00	1.50	0.5, H19	11.4	26.8	鉄筋コンクリート造であるが、耐震性が不足しているため、耐震補強改修が必要である。
11	熱帯農学研究センター	木造	1	452	68	14.48	2.16	2.16	2.33	2.00	2.00	1.83	2.00	—			耐震性、耐久性は不明であるが、外観からは、劣化は見られない。木造であるため、耐火性能はない。
12	航空工学教室 (航空学教室)	鉄筋コンクリート造	6	1,845	67	14.14	2.16	2.33	2.33	2.16	2.00	1.83	1.33	—	20.1	21.9	鉄筋コンクリート造であるが、構造体が劣化しているため、詳細な調査が必要である。
13	第三学生集会所	木造	1	453	64	13.49	2.50	2.00	1.66	1.83	1.50	2.00	2.00	—			耐震性、耐久性は不明であるが、外観からは、劣化は見られない。木造であるため、耐火性能はない。
14	松浜厚生施設	木造	2	397	62	13.14	2.16	1.66	2.00	1.83	1.83	1.66	2.00	—			耐震性、耐久性は不明であるが、外観からは、劣化が進んでいるようである。木造であるため、耐火性能はない。
15	原子核実験室	鉄筋コンクリート造	3	2,157	61	12.98	2.00	2.50	1.66	1.83	2.33	1.66	1.00	0.41一次, H18	5.4	31.0	鉄筋コンクリート造であるが、耐震性が不足し、構造体が劣化している。特殊な施設であるため、再活用は困難である。
16	道路工学実験室 (河海工学実験室)	鉄筋コンクリート造	2	205	59	12.49	1.50	2.00	2.33	1.83	1.50	1.50	1.83	—	86.6	21.3	鉄筋コンクリート造であるが、構造体が著しく劣化しているため、詳細な調査が必要である。
17	超伝導システム科学研究センター	鉄筋コンクリート造	2	578	58	12.31	1.66	2.16	2.00	1.66	1.50	1.50	1.83	—	75.1	14.5	鉄筋コンクリート造であるが、構造体が著しく劣化しているため、詳細な調査が必要である。
18	建築学教室	鉄筋コンクリート造	3 4	2,858 2,078	55	11.60	1.60	1.60	2.40	1.80	1.60	1.20	1.40	0.45, H19 0.79, H19	0.7	28.1	鉄筋コンクリート造であるが、大半は耐震性が不足しているため、詳細な調査が必要である。
19	農学部6号館 (農芸化学教室)	鉄筋コンクリート造	3 B1	3,375	46	9.82	1.83	1.33	1.50	1.50	1.33	1.00	1.33	0.69, H19	6.0	26.2	耐震性能はほぼ満足の値であり、コンクリート劣化も少ない。
19	砂防工学実験室	木造	1	499	46	9.80	1.60	1.20	1.40	1.60	1.40	1.20	1.40	—			耐震性、耐久性は不明であるが、外観からは、劣化は見られない。内部に大きな柱がないことから、耐震性は注意が必要である。木造であるため、耐火性能はない。
21	記録資料館	鉄筋コンクリート造	2	649	44	9.31	1.50	1.16	1.50	1.33	1.16	1.16	1.50	—	21.8	23.2	鉄筋コンクリート造であるが、構造体が劣化しているため、詳細な調査が必要である。
22	留学生センター分室 (発電所)	鉄筋コンクリート造	2	269	41	8.81	1.33	1.16	1.16	1.50	1.16	1.00	1.50	—	13.7	19.8	鉄筋コンクリート造であるが、構造体が劣化しているため、詳細な調査が必要である。
23	農学部実験室(汽罐室)	煉瓦造	1	202	38	8.03	1.80	1.40	1.00	1.00	1.20	0.80	0.83	—			煉瓦造であり、耐震性が危惧される。外壁をモルタルで補修した理由は不明であり、詳細な調査が必要である。
24	工学部高温化学実験室	鉄筋コンクリート造	1	278	34	7.20	1.00	1.00	1.00	1.20	1.00	1.00	1.00	—	48.0	25.9	鉄筋コンクリート造であるが、構造体が著しく劣化しているため、詳細な調査が必要である。
	正門	—	—	—	80	16.97	2.66	2.50	2.33	2.00	2.16	2.66	2.66				煉瓦造であるため、大規模な地震に備えた補強は必要。
	地蔵の森(工学部創立75周年記念庭園)	—			63	13.31	2.33	2.00	1.66	1.66	1.66	2.00	2.00				適正に管理されている樹木については、緑地計画等を検討のうえで、保存または移植の判断が必要。
	農学部庭園				47	9.97	1.66	1.33	1.33	1.33	1.33	1.33	1.66				

※1. 各項目の評点は、各委員が評価したS=3、A=2、B=1、C=0とし、その平均点を評点とした。

※2. 評点は、7項目の評点の合計に100/21を乗じた数値とした。

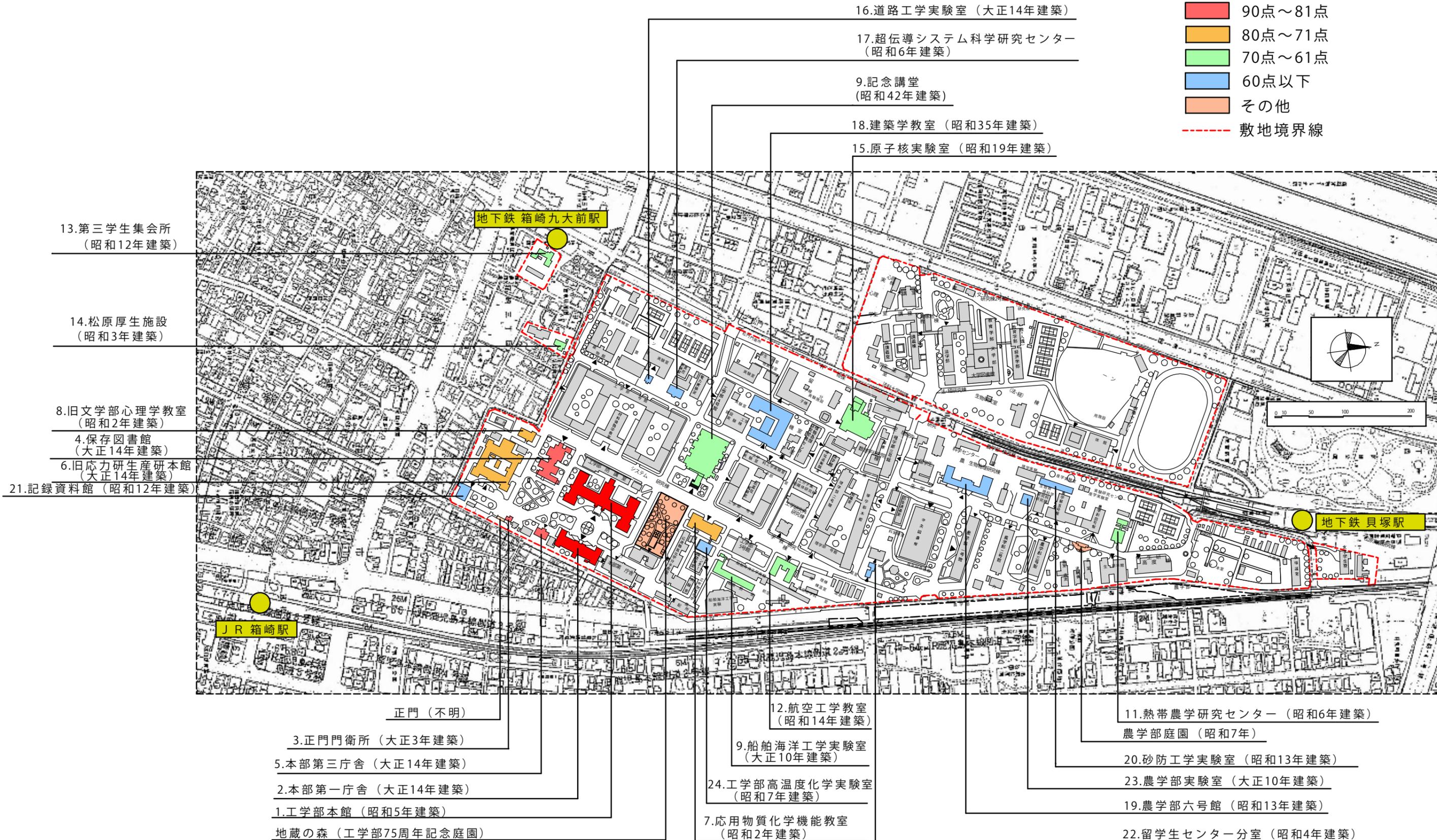
※安全度評価については、評価する全ての建物の耐震診断のデータがないこと、老朽度・耐震性・耐火性を同じ評価項目で評価することは、現状の情報だけで判断することは適当でないことから、今回の評価には、建物の安全に関する評価を実施しないこととした。



対象建物評価配置図

凡例

- 100点～91点
- 90点～81点
- 80点～71点
- 70点～61点
- 60点以下
- その他
- 敷地境界線



- 1.工学部本館 (昭和5年建築)
- 2.本部第一庁舎 (大正14年建築)
- 3.正門門衛所 (大正3年建築)
- 4.保存図書館 (大正14年建築)
- 5.本部第三庁舎 (大正14年建築)
- 6.旧応力研生産研本館 (大正14年建築)
- 7.応用物質化学機能教室 (昭和2年建築)
- 8.旧文学部心理学教室 (昭和2年建築)
- 9.船舶海洋工学実験室 (大正10年建築)
- 9.記念講堂 (昭和42年建築)
- 10.旧文学部心理学教室 (昭和2年建築)
- 11.熱帯農学研究センター (昭和6年建築)
- 12.航空工学教室 (昭和14年建築)
- 13.第三学生集会所 (昭和12年建築)
- 14.松原厚生施設 (昭和3年建築)
- 15.原子核実験室 (昭和19年建築)
- 16.道路工学実験室 (大正14年建築)
- 17.超伝導システム科学研究センター (昭和6年建築)
- 18.建築学教室 (昭和35年建築)
- 19.農学部六号館 (昭和13年建築)
- 20.砂防工学実験室 (昭和13年建築)
- 21.記録資料館 (昭和12年建築)
- 22.留学生センター分室 (昭和4年建築)
- 23.農学部実験室 (大正10年建築)
- 24.工学部高温化学実験室 (昭和7年建築)